

住民に特徴をメール

那賀町「SOSネット」始動

那賀町は、町内の認知症の高齢者が行方不明になった際、住民にメールで不明者の情報を送り、情報を寄せてもらう「SOS ネットワーク事業」をスタートさせた。行方不明の高齢者を地域ぐるみで探す体制を整えるのが狙いで、県内の市町村では初めての試み。町は、地域の事業所が加盟している既存の「見守りネットワーク」との二本柱で、行方不明者の早期発見を目指す。

SOSネットに協力 族が那賀署に搜索願をできる住民が、町にメ 出した際、町は登録しールを送るなどして登 した住民に情報を送る。録する。認知症の高齢 住民には、特殊詐欺者の家族には氏名や住 の注意喚起や認知症サ所、顔写真、身体的特 ポーター養成講座など徴などを書いた申請書 福祉関連の情報もメーを町に提出してもら 配信し、日頃から高う。申請済みの高齢者 齢者や認知症への意識が行方不明になり、家 を高めてもらう。

県内自治体初 目撃情報募る



那賀町が始めたSOSネットワーク事業。登録者にメールで行方不明者の情報が届く＝町役場

2016年2月に運用を始めた「見守りネットワーク」には、今年2月末時点で219事業所が加盟し、高齢者の見守り活動を行っている。行方不明者がるなどした場合は一方た。(大城咲)

出たとき、町が事業所に不明者の情報をメールで送り、手掛かりとなる情報を寄せてもらう。町消防署によると、65歳以上の行方不明者の検索は、2014と15年にそれぞれ1件発生。16、17年はなかった。

的に情報を寄せてもらっているのが実情だった。そこで町は、広く住民に協力を呼び掛けようと、SOSネットを導入した。

町保健医療福祉課は

「行方不明者の搜索だけでなく、地域の課題解決につながるネットワークを構築したい」としている。